

I. 活断層で発生する地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成28年(2016年)1月1日)※1

	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
関谷		
300年	ほぼ0%-0.003%	ほぼ0%-0.004%
100年		
30年	ほぼ0%-0.1%	ほぼ0%-0.2%

	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
別府-万年山(別府湾-日出生東部)		
100年	ほぼ0%-0.005%	ほぼ0%-0.006%
30年		
糸魚川-静岡構造線(北部)		
300年	0.008%-15%	0.008%-16%

※1) 活断層評価備考

・ここに掲載しているものは、時間の経過とともに発生確率値が増加するモデルを用いる全ての評価について再計算を行った結果、発生確率値の表記に変更のあったもの。

II. 海溝型地震の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 平成28年(2016年)1月1日)※2

相模トラフ	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
次のM8クラス		
発生間隔	180-590年	
経過率	0.15-0.51	0.15-0.51
10年	ほぼ0%-1%	ほぼ0%-1%
20年	ほぼ0%-3%	ほぼ0%-3%
30年	ほぼ0%-5%	ほぼ0%-5%
40年	ほぼ0%-7%	ほぼ0%-8%
50年	ほぼ0%-10%	ほぼ0%-10%
100年	ほぼ0%-20%	ほぼ0%-20%
300年	ほぼ0%-80%	ほぼ0%-80%

南海トラフ	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
平均発生間隔	88.2年	
ばらつき α	0.20-0.24	
経過率	0.78	0.79
10年	20%程度	20%程度
20年	50%程度	50%程度
30年	70%程度	70%程度
40年	80%-90%	80%-90%
50年	90%程度	90%程度
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

三陸沖から房総沖	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
東北地方太平洋沖型		
平均発生間隔	600年	
ばらつき α	0.24	
経過率	0.01	0.01
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	0.3%	0.3%

三陸沖北部		
平均発生間隔	97.0年	
ばらつき α	0.11-0.24	
経過率	0.48	0.49
10年	ほぼ0%-1%	ほぼ0%-2%
20年	0.04%-7%	0.06%-8%
30年	2%-20%	2%-20%
40年	20%-40%	20%-40%
50年	50%程度	50%-60%
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

三陸沖南部海溝寄り		
平均発生間隔	109年	
ばらつき α	0.19-0.24	
経過率	0.03	0.04
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%-0.006%	ほぼ0%-0.009%
50年	0.01%-0.2%	0.02%-0.2%
100年	40%-50%	50%程度
300年	90%程度以上	90%程度以上

茨城県沖		
平均発生間隔	21.9年	
ばらつき α	0.19-0.24	
経過率	0.17	0.22
10年	0.9%-3%	2%-6%
20年	70%程度	70%-80%
30年	90%程度以上	90%程度以上

千島海溝(1/2)	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
十勝沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.16	0.17
10年	ほぼ0%-0.004%	ほぼ0%-0.008%
20年	0.02%-0.5%	0.04%-0.7%
30年	1%-5%	2%-6%
40年	9%-20%	10%-20%
50年	30%-40%	30%-40%
100年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
根室沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.58	0.59
10年	8%-10%	10%程度
20年	30%程度	30%程度
30年	50%程度	50%程度
40年	70%程度	70%程度
50年	80%-90%	80%-90%
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

日本海東縁部	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
北海道北西沖		
平均発生間隔	3900年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	2100年(0.54)は概数なので更新せず	
10年	0.002%-0.04%	0.002%-0.04%
20年	0.004%-0.07%	0.004%-0.07%
30年	0.006%-0.1%	0.006%-0.1%
40年	0.008%-0.2%	0.008%-0.2%
50年	0.01%-0.2%	0.01%-0.2%
100年	0.03%-0.4%	0.03%-0.4%
300年	0.2%-2%	0.2%-2%

北海道西方沖		
平均発生間隔	1400-3900年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.05	0.02-0.05
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%	ほぼ0%

北海道南西沖		
平均発生間隔	500-1400年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.04	0.02-0.04
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%-4%	ほぼ0%-4%

青森県西方沖		
平均発生間隔	500-1400年	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.02-0.06	0.02-0.07
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%-5%	ほぼ0%-5%

山形県沖		
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.18以下	0.18以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%-0.1%	ほぼ0%-0.1%

新潟県北部沖		
平均発生間隔	1000年以上	
ばらつき α	0.17-0.24	
経過率	0.05以下	0.05以下
10年	ほぼ0%	ほぼ0%
20年	ほぼ0%	ほぼ0%
30年	ほぼ0%	ほぼ0%
40年	ほぼ0%	ほぼ0%
50年	ほぼ0%	ほぼ0%
100年	ほぼ0%	ほぼ0%
300年	ほぼ0%	ほぼ0%

千島海溝(2/2)	2015年1月1日時点の評価	2016年1月1日時点の評価
色丹島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.63	0.64
10年	10%-20%	10%-20%
20年	40%程度	40%程度
30年	60%程度	60%程度
40年	70%-80%	70%-80%
50年	80%-90%	80%-90%
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上
択捉島沖		
平均発生間隔	72.2年	
ばらつき α	0.24-0.32	
経過率	0.71	0.72
10年	20%程度	20%程度
20年	40%-50%	50%程度
30年	60%-70%	60%-70%
40年	80%-90%	80%-90%
50年	90%程度	90%程度
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

※2) 海溝型地震備考

・ここに掲載しているものは、時間の経過とともに発生確率値が増加するモデルを用いる全ての評価について再計算を行った結果。

・黄色で示した箇所が、再計算の結果、表記に変更のあったもの。